

分娩進行を判断するアセスメントツールの開発

看護学部 渡邊竹美

キーワード 助産師、経験知、分娩

研究概要

お産の進み方は人それぞれ異なるが、出産をサポートする助産師は、産婦ケアの実践を重ねながら、分娩進行を判断する経験知を習得している。しかし、実践から習得した経験知と分娩進行の関係は可視化されていない。これまでの研究では、助産師が習得した分娩進行を判断する経験知を可視化し、医学モデルとは異なる助産モデルを提示した。そして、経験知を基盤にした観察指標を作成し、経験知と分娩進行の関係を可視化し、分娩進行を判断する助産師の経験知の有効性を明らかにした。現在進行中の研究では、助産師の経験知を基盤に作成した観察指標を用いたアセスメントツールの開発に取り組んでいる。これらの研究成果は、看護基礎教育、助産基礎教育、新人助産師教育、卒後教育での活用を目指している。

アピールポイント

経験知や実践知の可視化は、臨床で働く助産師とともに作り上げた研究成果であり、臨床現場での活用・普及が期待される。

応用分野

看護教育、新人助産師教育、卒後教育